

(第3種郵便物認可)

米田 雅子 (慶応大特任教授)

第2次安倍改造内閣は地方創生のために「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、石破茂氏が担当大臣に就任した。内閣の最重要課題として、人口減少対策や地域活性化にこれまでとは次元の異なる取り組みを行うという。

地方の活性化を阻んでいるものに縦割り行政の弊害がある。中央の省庁ごとの政策や制度が多く、非効率や不自由を生んでいる。地方が自由な発想で、主体的に地方創生に取り組めるよう、今度こそは実効性のある本部をつくってもらいたい。

これまでも多くの地域活

識者論 地方創生阻む縦割り行政

性化の施策があったが、成果をあげてきたとは言いがたい。政府に本部ができるよう、各省庁から関連する施策と予算を寄せ集め、「地方活性化のための総合政策とそ



よねだ・まよこ 56年山口県生まれ。お茶の水女子大卒。専門は地方公共政策など。内閣府地域活性化伝道師。近く「縦割りをこえて日本を元気に」を出版。

本部の実行予算確保を

の関連予算」とすることが多かった。本部自体には実行予算と実行部隊がなく、審議は省庁横断的に行うものの、その実施は従来の〇〇省△△課に割り振っていた。

しかし、各省庁の施策の一覧表を作っても、地域の創意工夫は喚起されない。道、農道、林道や民間の道、農道、林道や民間の道、農道、林道や民間の道など、異なる種類の道を

各省庁が全国一律の補助制度をつくり、それに地方が従う方式では、地方の活性化という提唱をしている。公

の道路は国土交通省、農道は農水省、林道は林野庁と分かれているために、取りまとめの省庁と課が決まらず、皆が進めるべきと考えても、すくんでしまいがちだ。

まち・ひと・しごと本部が、地方創生のエンジンとなるためには、本部自

体が実行予算を持ち、地方発の省庁横断型の施策を前に進める体制が必要である。各省の施策を集めた時に、それぞれの重複や無駄を精査して予算を絞り出し、それを実行予算の原資にしようか。つまり、本部自体が、個別政策の省庁横断の調整を行ったうえで、各省に仕事を割り振る体制を提案したい。

ちなみに、東日本大震災の復興事業でも、復興庁は自らの実行予算を持たず、各省各課の予算に頼っている。それぞれの予算の執行では所管課のルールに従う必要がある、これが被災地復興の動きを鈍らせている。

霞が関では、省庁の上記「総合的な調整を行う組織」をつくることは許容しても、その組織に各省各課の予算を引き渡すことはなかった。縦割り行政の本質は予算獲得にある。この予算獲得競争は、財政赤字の大きな要因になるとともに、縦割りの弊害を生んでいる。省益を超えて、地方に向き合つことができるかが問われている。

識者 評論



米田 雅子
慶応大特任教授

第2次安倍改造内閣は地方創生のために「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、石破茂氏が担当大臣に就任した。内閣の最重要課題として、人口減少対策や地域活性化にこれまでとは次元の異なる取り組みを行うという。地方の活性化を阻んでいるものに縦割り行政の弊害がある。中央の省庁ごとの政策や制度が多く、非効率や不自由を生んでいる。地方が自由な発想で、主体的に地方創生に取り組めるよう、今度こそは実効性のある本部をつくってほしい。

これまでも多くの地域活性化の施策があったが、成果をあげてきたとは言いがたい。政府に本部ができると、各省庁から関連する施策と予算を寄せ集め、「地方活性化のため

地方創生 縦割り行政 脱却必要

よねだ・まろし 1956年山口県生まれ。お茶の水女子大卒。専門は地方公共政策など。内閣府地域活性化伝道師。近く「縦割りをこえて日本を元気に」を出版。

の総合政策とその関連予算」とすることが多かった。本部自体には実行予算と実行部隊がなく、審議は省庁横断的に行うものの、その実施は従来〇〇省△△課に割り振っていた。

しかし、各省庁の施策の一覧表を作っても、地域の創意工夫は喚起されない。各省庁が全国一律の補助制度をつくり、それに地方が従う方式では、地方の活性化は望めない。それは過去の経過をみて

も明らかだ。さらには省庁をまたがる新しい発想の施策は、〇〇省△△課という所管がないために前に進まないことが大きな問題だ。

例えば、私は「既存の公道、農道、林道や民間の道など、異なる種類の道をつないで、防災の命の道ネットワークをつくらう」という提唱をしている。公道だけでなく既存の民間の道も洗い出して、これらをつなぎ災害時の避難路を最小のコストでつくるという、分かりやすい話だ。

平時には森林整備や国土保全にも役立つとして、岐阜県や高知県が検討を始めている。しかし、それぞれの道路は国土交通省、農道は農水

省、林道は林野庁と分かれているために、取りまどめの省庁と課が決まらず、皆が進めるべきと考えても、すくんでしまいがちだ。

まち・ひと・しごと本部が、地方創生のエンジンとなるためには、本部自体が実行予算を持ち、地方発の省庁横断型の施策を前に進める体制が必要である。各省の施策を集めた時に、それぞれの重複や無駄を精査して予算をしぼり出し、それを実行予算の原資にしてはどうか。つまり、本部自体が、個別政策の省庁横断の調整を行ったうえで、各省に仕事を割り振る体制を提案したい。

ちなみに、東日本大震災の復興事業でも、復興庁は自らの実行予算を持たず、各省各課の予算に頼っている。それぞれの予算の執行では所管課のルールに従う必要があり、これが被災地復興の動きを鈍らせている。

霞が関では、省庁の上にも「総合的な調整を行う組織」をつくることは許容しても、その組織に各省各課の予算を引き渡すことはなかった。縦割り行政の本質は予算獲得にある。この予算獲得競争は、財政赤字の大きな要因になることも、縦割りの弊害を生んでいる。省益を超えて、地方に向き合うことができるかが問われている。



第2次安倍改造内閣は地方創生のために「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、石破茂氏が担当大臣に就任した。内閣の最重要課題として、人口減少対策や地域活性化にこれまでとは次元の異なる取り組みを行うという。地方の活性化を阻んでいるものに縦割り行政の弊害がある。中央

「地方創生」の行方

慶応大特任教授 米田 雅子

の省庁ごとの政策や制度が多くの非効率や不自由を生んでいる。地方が自由な発想で、主体的に地方創生に取り組みたい。今度こそは実効性のある本部をつくってほしい。

寄せ集め施策から脱却を

施策があったが、成果をあげてきたとは言えない。政府に本部ができると、各省庁から関連する施策と予算を寄せ集め、「地方活性化のための総合政策とその関連予算」とすることが多かった。本部自体には実行予算と実行部隊がな

く、審議は省庁横断的に行うもの、その実施は従来の〇〇省△△課に割り振っていた。しかし、各省庁の施策の一覧表を作っても、地域の創意工夫は喚起されない。各省庁が全国一律の補助制度をつくり、それに地方が

道、林道や民間の道など、異なる種類の道をつないで、防災の命の道ネットワークをつくる」という提唱をしている。公道だけでなく既存の民間の道も洗い出して、これらをつなぎ災害時の避難路を最小のコストでつくるという、分

従う方式では、地方の活性化は望めない。それは過去の経過をみても明らかだ。さらには省庁をまたがる新しい発想の施策は、〇〇省△△課という所管がないために前に進まないことが大きな問題だ。例えば、私は「既存の公道、農

かりやすい話だ。平時には森林整備や国土保全にも役立つとして、岐阜県や高知県が検討を始めている。しかし、それぞれの道路は国土交通省、農道は農水省、林道は林野庁と分かれているために、取りまとめの省庁

と課が決まらず、皆が進めるべきと考えても、すくんでしまいがちだ。

まち・ひと・しごと本部が、地方創生のエンジンとなるためには、本部自体が実行予算を持ち、地方発の省庁横断型の施策を前に進める体制が必要である。各省の施策を集めた時に、それぞれの重複や無駄を精査して予算をしばり出し、それを実行予算の原資にしてはどうか。つまり、本部自体が、個別政策の省庁横断の調整を行って、各省に仕事を割り振る体制を提案したい。

ちなみに、東日本大震災の復興事業でも、復興庁は自らの実行予算を持たず、各省各課の予算に頼っている。それぞれの予算の執行

では所管課のルールに従う必要があり、これが被災地復興の動きを鈍らせている。

震が関では、省庁の上に「総合的な調整を行う組織」をつくることは許容しても、その組織に各省各課の予算を引き渡すことはなかった。縦割り行政の本質は予算獲得にある。この予算獲得競争は、財政赤字の大きな要因になるとも、縦割りの弊害を生んでいる。省益を超えて、地方に引き合うことができないかが問われている。

よねだ・まさこ 56年山口県生まれ。お茶の水女子大卒。専門は地方公共政策など。内閣府地域活性化推進部。近く「縦割りをこえて日本を元気に」を出版。

地方創生

識者 評論

第2次安倍改造内閣は地方創生のために「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、石破茂氏が担当大臣に就任した。内閣の最重要課題として、人口減少対策や地域活性化にこれまでとは次元の異なる取り組みを行うという。

地方の活性化を阻んでいるものに縦割り行政の弊害がある。中央の省庁ごとの政策や制度が多く、非効率や不自由を生んでいる。地方が自由な発想で、主体的に地方創生に取り組めるよう、今度こそは実効性のある本部をつくってほしい。

これまでも多くの地域活性化



慶応大特任教授

米田 雅子

獲得したい独自予算

の施策があつたが、成果をあげてきたとはいえない。政府に本部ができる、各省庁から関連する施策と予算を寄せ集め、「地方活性化のための総合政策と地方関連予算」とすることが多かった。本部自体には実行予算と実行部隊がなく、審議は省庁横断的に行うものの、その実施は

の施策は、〇〇省△△課という所管がないために前に進まないことが大きな問題だ。例えば、私は「既存の公道、農道、林道や民間の道など、異なる種類の道をつないで、防災の命の道ネットワークをつくらう」という提唱をしている。公道だけでなく既存の民間の道も

まどめの省庁と課が決まらず、皆が進めるべきと考えても、すくんでしまいがちだ。まち・ひと・しごと本部が、地方創生のエンジンとなるためには、本部自体が実行予算を持ち、地方発の省庁横断型の施策を前に進める体制が必要である。各省の施策を集めた時に、

予算に頼っている。それぞれの予算の執行では所管課のルールに従う必要があり、これが被災地復興の動きを鈍らせている。霞が関では、省庁の上に「総合的な調整を行う組織」をつくることは許容しても、その組織に各省各課の予算を引き渡すことはなかった。縦割り行政の本質は予算獲得にある。この予算獲得競争は、財政赤字の大きな要因になるとともに、縦割りの弊害を生んでいる。省益を超えて、地方に向き合うことができ

従来からの〇〇省△△課に割り振っていた。しかし、各省庁の施策の一览表を作っても、地域の創意工夫は喚起されない。各省庁が全国一律の補助制度をつくり、それに地方が従う方式では、地方の活性化は望めない。それは過去の経過をみても明らかだ。さらには省庁をまたがる新しい発想

洗い出して、これらをつなぎ災害時の避難路を最小のコストでつくるという、分かりやすい話だ。平時には森林整備や国土保全にも役立つとして、岐阜県や高知県が検討を始めている。しかし、それぞれの道路は国土交通省、農道は農水省、林道は林野庁と分かれているために、取り

それぞれの重複や無駄を精査して予算をしぼり出し、それを実行予算の原資にしてはどうか。つまり、本部自体が、個別政策の省庁横断の調整を行ったうえで、各省に仕事を割り振る体制を提案したい。ちなみに、東日本大震災の復興事業でも、復興庁は自らの実行予算を持たず、各省各課の

よねだ・まさき 1956年山口県生まれ。お茶の水女子大卒。専門は地方公共政策など。内閣府地域活性化伝道師。近く「縦割りをとって日本を元気に」を出版。

識者評論

第2次安倍改造内閣は地方創生のために「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、石破茂氏が担当大臣に就任した。内閣の最重要課題として、人口減少対策や地域活性化にこれまでとは次元の異なる取り組みを行うという。

地方の活性化を阻んでいるものに縦割り行政の弊害がある。中央の省庁ごとの政策や制度が多岐にわたる非効率や不自由を生んでいる。地方が自由な発想で、主体的に地方創生に取り組めるよう、今度こそは実効性のある本部をつくってほしい。これまでも多くの地域活性化の施策があった

地方創生

が、成果をあげてきたとは言いがたい。政府に本部ができること、各省庁から関連する施策と予算を寄せ集め、「地方活性化のための総合政策とその関連予算」とすることが多かった。本部自体には実行予算と実行部隊がなく、審議は省庁横断的に

の道ネットワークをつくるという提唱をしていない。各省庁が全国一律の補助制度をつくり、それに地方が従う方式ではない。それは過去の経過をみても明らかだ。さらには省庁をまたがる新しい発想の施策は、〇〇省△△課という所管がないために前に進まないことが大きな問題だ。

平時には森林整備や国土保全にも役立つとして、岐阜県や高知県が検討を始めている。しかし、それぞれの道路は国土交通省、農道は農水省、林道は林野庁と分かれているために、取りまとめの省庁と課が決まらず、皆が進めるべきと考えても、すくんでしまいがちだ。

実行予算の原資にしてはどうか。つまり、本部自体が、個別政策の省庁横断の調整を行ったうえで、各省に仕事を割り振る体制を提案したい。ちなみに、東日本大震災の復興事業でも、復興庁は自らの実行予算を持たず、各省各課の予算に頼っている。それぞれの予算の執行では所管課のルールに従う必要がある。これが被災地復興の動きを鈍らせている。

米田 雅子
慶応大特任教授



よねだ・まさこ 56年山口県生まれ。お茶の水女子大卒。専門は地方公共政策など。内閣府地域活性化伝道師。近く「縦割りをこえて日本を元気に」を出版。

寄せ集め施策の脱却を

「総合的な調整を行う組織」をつくることは許容しても、その組織に各省各課の予算を引き渡すことはなかった。縦割り行政の本質は予算獲得にある。この予算獲得競争は、財政赤字の大きな要因になるとともに、縦割りの弊害を生んでいる。省益を超えて、地方に向き合うことができるかが問われている。

識者評論

第2次安倍改造内閣は地方創生のために「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、石破茂氏が担当大臣に就任した。内閣の最重要課題として、人口減少対策や地域活性化にこれまでは次元の異なる取り組みを行うという。

地方の活性化を阻んでいるものに縦割り行政の弊害がある。中央の省庁ごとの政策や制度が多くの非効率や不自由を生んでいる。地方が自由な発想で、主体的に地方創生に取り組めるよう、今度こそは実効性のある本部をつくらなければならない。

これまでも多くの地域活性化の施策があったが、成果をあげてきたとは言えない。政府に本部ができるよう、各省庁から関連する施策と予算を寄せ集め、「地方活性化のための総合政策とその関連予算」とすることが多かった。本部自体には実行予算と実行部隊がなく、審議は省庁横断的に行うものの、その実施は従来の〇〇省△△課に割り振っていた。

しかし、各省庁の施策の一覧表を作っても、地域の創意工夫は喚起されない。各省庁が全国一律の補助制度をつくり、それに地方が従う方式では、地方の活性化は望めない。それは過去の経過をみても明らかだ。さらには省庁をまたがる新し



米田雅子・慶応大特任教授

「あなた・まこと」
56年山口県生まれ。
お茶の水女子大卒。
専門は地方公共政策など。内閣府地域活性化伝道師。近々縦割りをこえて日本を「元気に」を出版。

地方創生

寄せ集め施策から脱却を

慶応大特任教授 米田雅子

い発想の施策は、〇〇省△△課という所管がないために前に進まないことが大きな問題だ。

例えば、私は「既存の公道、農道、林道や民間の道など、異なる種類の道をつないで、防災の命の道ネットワークをつくらう」という提唱をしている。公道だけでなく既存の民間の道も洗い出して、これらをつなぎ災害時の避難路を最小のコストでつくるという、分かりやすい話だ。

平時には森林整備や国土保全にも役立つとして、岐阜県や高知県が検討を始めている。しかし、それぞれの道路は国土交通省、農道は農水省、林道は林野庁と分かれているために、取りまとめる省庁と課が決まらず、皆が進めるべきと考えても、すんぽうしまいがちだ。

「まち・ひと・しごと」本部が、地方創生のエンジンとなるためには、本部自体が実行予算を持ち、地方発の省庁横断型の施策を前に進める体制が必要である。各省の施策を集めた時に、それぞれの重複や無駄を精査して予算をしばり出し、それを実行予算の原資にしてはどうか。つまり、本部自体が、個別政策の省庁横断の調整を行ったうえで、各省に仕事を割り振る体制を提案したい。

ちなみに、東日本大震災の復興事業でも、復興庁は自らの実行予算を持たず、各省各課の予算に頼っている。それぞれの予算の執行では所管課のルールに従う必要がある。これが被災地復興の動きを鈍らせている。

霞が関では、省庁の上に「総合的な調整を行う組織」をつくることは許容しても、その組織に各省各課の予算を引き渡すことはなかった。縦割り行政の本質は予算獲得にある。この予算獲得競争は、財政赤字の大きな要因になることも、縦割りの弊害を生んでいる。省益を超えて、地方に同じき合同のことができないか問われている。

縦割り型から脱却が必要

地方活性化の取り組み

第2次安倍改造内閣は地方創生のために「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、石破茂氏が担当大臣に就任した。内閣の最重要課題として、人口減少対策や地域活性化にこれまでとは次元の異なる取り組みを行うという。

地方の活性化を阻んでいるものに縦割り行政の弊害がある。中央の省庁ごとの政策や制度が多く、非効率や不自由を生んでいる。地方が自由な発想で、主体的に地方創生に取り組めるよう、今度こそは実効性のある本部をつくってほしい。

平時には森林整備や国土保全にも役立つとして、岐阜県や高知県が検討を始めている。しかし、それぞれの道路は国土交通省、農道は農水省、林道は林野庁と分かれているために、取りまとめの省庁と課が決まらず、皆が進めるべきと考えても、すくんでしまいがちだ。

これまででも多くの地域活性化の施策があったが、成果をあげてきたとは言い難い。政府に本部ができること、各省庁から関連する施策と予算を寄せ集め、「地方活性化のための総合政策」とその関連予算」とすることが多かった。本部自体には実行予算と実行部隊がなく、審議は省庁横断的に行うものの、その実施は従来の〇〇省△△課に割り振っていた。

地方創生のエンジンとなるためには、本部自体が実行予算を持ち、地方発の省庁横断型の施策を前に進める体制が必要である。各省の施策を集めた時に、それぞれの重複や無駄を精査して予算をしぼり出し、それを実行予算の原資にしてはどうか。つまり、本部自体が、個別政策の省庁横断の調整を行ったうえで、各省に仕事を割り振る体制を提案したい。

ちなみに、東日本大震災の復興事業でも、復興庁は自らの実行予算を持たず、各省各課の予算に頼っている。それぞれが全国一律の補助制度をつくり、それに地方が従う方式では、地方の活性化は望めない。

霞が関では、省庁の上に「総合的な調整を行う組織」をつくることは許容しても、その組織には各省各課の予算を引き渡すことはなかった。縦割り行政の本質は予算獲得にある。この予算獲得競争は、財政赤字の大きな要因になるとともに、縦割りの弊害を生んでいる。省益を超えて、地方に向き合つことができると問われている。(慶応大 特任教授 米田雅子)

それは過去の経過をみても明らかだ。さらには省庁をまたがる新しい発想の施策は、〇〇省△△課という所管がないために前に進まないことが大きな問題だ。

例えば、私は「既存の公道、農道、林道や民間の道など、異なる種類の道をつないで、防災の命の道ネットワークをつくらう」という提唱をしている。公道だけでなく既存の民間の道も

いまだき論壇

高

寄せ集め施策から脱却を



慶応大特任教授 米田 雅子

地方創生

第2次安倍改造内閣は地方創生のために「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、石破茂氏が担当大臣に就任した。内閣の最重要課題として、人口減少対策や地域活性化にこれまでは次元の異なる取り組みを行うという。地方の活性化を阻んでいるものに縦割り行政の弊害がある。中央の省庁ごとの政策や制度が多くの非効率や不自由を生んでいる。地方が自由な発想で、主体的に地方創生に取り組めるよう、今度こそは実効性のある本部をつくってほしい。

これまでも多くの地域活性化の施策があったが、成果を

識者評論

あげてきたと言いがたい。政をつくらう」という提唱を府に本部ができると、各省庁している。公道だけでなく既から関連する施策と予算を寄せ集め、「地方活性化のため」の総合政策とその関連予算とするが多かった。本部自体には実行予算と実行部隊がなく、審議は省庁横断的に行うものの、その実施は従来の〇〇省△△課に割り振っていた。しかし、各省庁の施策の一覧表を作っても、地域の創意工夫は喚起されない。各省庁が全国一律の補助制度をつくり、それに地方が従う方式では、地方の活性化は望めない。それは過去の経過をみても明らかだ。さらには省庁をまたがる新しい発想の施策は、〇〇省△△課という所管がないために前に進まないことが大きな問題だ。

例えば、私は「既存の公道、農道、林道や民間の道など、異なる種類の道をつないで、防災の命の道ネットワーク」が、個別政策の省庁横断の調整を行ったうえで、各省に仕事を割り振る体制を提案したい。ちなみに、東日本大震災の復興事業でも、復興庁は自ら実行予算を持たず、各省各課の予算に頼っている。それぞれの予算の執行では所管課のルールに従う必要があり、これが被災地復興の動きを鈍らせている。霞が関では、省庁の上にも「総合的な調整を行う組織」をつくることは許容しても、その組織に各省各課の予算を引き渡すことはなかった。縦割り行政の本質は予算獲得にある。この予算獲得競争は、財政赤字の大きな要因になることも、縦割りの弊害を生んでいる。省益を超えて、地方に向き合つことができるかが問われている。

よねだ・まさこ 56年山口県生まれ。お茶の水女子大卒。専門は地方公共政策など。内閣府地域活性化伝道師。近く「縦割りをこえて日本を元気に」を出版。

識者 評論

第2次安倍改造内閣は地方創生のために「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、石破茂氏が担当大臣に就任した。内閣の最重要課題として、人口減少対策や地域活性化にこれまでとは次元の異なる取り組みを行うという。

政策や制度が多く、非効率や不自由を生んでいる。地方が自由な発想で、主体的に地方創生に取り組めるよう、今度こそは実効性のあつた本部をつくってもらいたい。

性化のための総合政策とその関連予算」とすることが多かった。本部自体には実行予算と実行部隊がなく、審議は省庁横断的に行うものの、その実施は従来の〇〇省△△課に割り振っていた。

など、異なる種類の道をつないで、防災の命の道ネットワークをつくらう」という提唱をしている。公道だけでなく既存の民間の道も洗い出して、これらをつなぎ災害時の避難路を最小のコストでつくるという、分かりやすい話だ。

平時には森林整備や国土保全にも役立つとして、岐阜県や高知県が検討を始めている。しかし、それぞれの道路は国土交通省、農道は農水省、林道は林野庁と分かれているために、取りまとめの省庁と課が決まらず、皆が進めるべきと考えるも、すくんでしまいがちだ。

省益超え 実行予算を

地方創生

果をあげてきたとは言いがたい。政府に本部ができること、各省庁から関連する施策と予算を寄せ集め、「地方活

一覧表を作っても、地域の創意工夫は喚起されない。各省庁が全国一律の補助制度をつくり、それに地方が従う方式では、地方の活性化は望めない。それは過去の経過をみても明らかだ。

また、ひと・しごと本部が、地方創生のエンジンとなるためには、本部自体が実行予算を持ち、地方発の省庁横断型の施策を前に進める体制が必要である。各省の施策を集めた時に、それぞれの重複や無駄を精査

して予算をしばり出し、それを実行予算の原資にしてはどうか。つまり、本部自体が、個別政策の省庁横断の調整を行ったうえで、各省に仕事を割り振る体制を提案したい。

地方の活性化を阻んでいるものに縦割り行政の弊害がある。中央の省庁ごとの

予算を寄せ集め、「地方活

果をあげてきたとは言いがたい。政府に本部ができること、各省庁から関連する施策と予算を寄せ集め、「地方活

また、ひと・しごと本部が、地方創生のエンジンとなるためには、本部自体が実行予算を持ち、地方発の省庁横断型の施策を前に進める体制が必要である。各省の施策を集めた時に、それぞれの重複や無駄を精査

して予算をしばり出し、それを実行予算の原資にしてはどうか。つまり、本部自体が、個別政策の省庁横断の調整を行ったうえで、各省に仕事を割り振る体制を提案したい。

慶応大特任教授

米田雅子



よねだ・まさこ 56年柳井市生まれ。お茶の水女子大卒。専門は地方公共政策など。内閣府地域活性化伝道師。近く「縦割りをこえて日本を元気に」を出版。

例えば、私は「既存の公道、農道、林道や民間の道

また、ひと・しごと本部が、地方創生のエンジンとなるためには、本部自体が実行予算を持ち、地方発の省庁横断型の施策を前に進める体制が必要である。各省の施策を集めた時に、それぞれの重複や無駄を精査

して予算をしばり出し、それを実行予算の原資にしてはどうか。つまり、本部自体が、個別政策の省庁横断の調整を行ったうえで、各省に仕事を割り振る体制を提案したい。

第2次安倍改造内閣は地方創生のために「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、石破茂氏が担当大臣に就任した。内閣の最重要課題として、人口減少対策や地域活性化にこれまでとは次元の異なる取り組みを行うという。

地方の活性化を阻んでいるものに縦割り行政の弊害がある。中央の省庁ごとの政策や制度が多岐にわたる非効率や不自由を生んでいる。地方が自由な発想で、主体的に地方創生に取り組めるよう、今度こそは実効性のある本部をつくってもらいたい。

地方創生の課題



慶応大特任教授
米田 雅子氏

よねた・まさこ 56年
山口県生まれ。お茶の水女子大卒。専門は地方公共政策など。内閣府地域活性化伝道師。近く「縦割りをこえて日本を元気に」を出版。

○省△△課に割り振っていない。た。

しかし、各省庁の施策の一覧表を作っても、地域の創意工夫は喚起されない。各官庁が全国一律の補助制度をつくり、それに地方が従う方式では、地方の活性化は望めない。それは過去の経過をみて明らかだ。さらには省庁をまたがる新

など、異なる種類の道をつないで、防災の命の道ネットワークをつくらう」とい

洗い出して、これらをつなぎ災害時の避難路を最小のコストでつくるという、分かれやすい話だ。平時には森林整備や国土保全にも役立つとして、岐



まち・ひと・しごと本部が、地方創生のエンジンとなるためには、本部自体が実行予算を持ち、地方発の

震が関では、省庁の上には総合的な調整を行う組織をつくることは許容して

省庁縦割り繰り返すな

これまでも多くの地域活性化のための総合政策とそ

しい発想の施策は、○〇省 卓県や高知県が検討を始め

は農水省、林道は林野庁と分かれていた。取り

国は原燃支援強化を

エネ調 認可法人化異論目立つ
小委

だ(伴英幸原子力資料情報室共同代表)、「日

遅れて日本原燃の「低レベル 予定。北陸電は7月に搬出す

原発、風力よりコスト

経済産業省は16日、総を基本に、経営や事業に「討しているが、委員から

2ヵ月遅れ搬出

原燃、風力よりコスト

第2次安倍改造内閣は地方創生のために「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、石破茂氏が担当大臣に就任した。内閣の最重要課題として、人口減少対策や地域活性化にこれまでは次元の異なる取り組みを行うという。

地方の活性化を阻んでいるものに縦割り行政の弊害がある。中央の省庁ごとの政策や制度が多くの非効率や不自由を生んでいる。地方が自由な発想で、主体的に地方創生に取り組めるよう、今度こそは実効性のある本部をつくってもらいたい。

地方創生の課題

慶応大特任教授

米田 雅子氏



よねだ・まさこ 56年山口県生まれ。お茶の水女子大卒。専門は地方公共政策など。内閣府地域活性化伝道師。近く「縦割りをこえて日本を元気に」を出版。

○省△△課に割り振っていない。異なる種類の道をつ

た。しかし、各省庁の施策の一覧表を作っても、地域の創意工夫は喚起されない。

各省庁が全国一律の補助制度をつくり、それに地方が従う方式では、地方の活性化は望めない。それは過去の経過をみても明らかだ。

平時には森林整備や国土保全にも役立つとして、岐

など、異なる種類の道をつ

ないで、防災の命の道ネットワークをつくろう」という提唱をしている。公道た

けでなく既存の民間の道も洗い出して、これらをつなぎ災害時の避難路を最小のコストでつくるという、分

かりやすい話だ。

まち・ひと・しごと本部が、地方創生のエンジンとなるためには、本部自体が

実行予算を持ち、地方発の

省庁横断型の施策を前に進

める体制が必要である。各

省の施策を集めた時に、そ

れぞれの重複や無駄を精査

して予算をしぼり出し、そ

れを実行予算の原資にして

はどうか。つまり、本部自

体が、個別政策の省庁横断

の調整を行ったうえで、各

省に仕事を割り振る体制を

提案したい。

ちなみに、東日本大震災

の復興事業でも、復興庁は

自らの実行予算を持たず、

各省各課の予算に頼っている。それぞれの予算の執行

省庁縦割り繰り返すな

これまででも多くの地域活性化のための総合政策とそ

性の施策があったが、成

果をあげてきたとは言いが

難多かつた。本部自体には実

行予算と実行部隊がなく、

各官庁から関連する施策と

審議は省庁横断的に行つ

予算を寄せ集め、「地方活

の、その実施は従来の○

ず、皆が進めるべきと考え

ても、すくんでしまいがち

だ。

の復興事業でも、復興庁は

自らの実行予算を持たず、

各省各課の予算に頼っている。それぞれの予算の執行

では所管課のルールに従う

必要がある、これが被災地

復興の動きを鈍らせてい

る。

霞が関では、省庁の上

「総合的な調整を行う組織」

をつくることは許容して

も、その組織に各省各課の

予算を引き渡すことはなか

った。縦割り行政の本質は

予算獲得にある。この予算

獲得競争は、財政赤字の大

きな要因になるとも、縦

割りの弊害を生んでい

る。省益を超えて、地方に

向き合つていけるかが

問われている。

(第3種郵便物認可)

第2次安倍改造内閣は地方創生のために「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、石破茂氏が担当大臣に就任した。内閣の最重要課題として、人口減少対策や地域活性化にこれまでとは次元の異なる取り組みを行うという。

地方の活性化を阻んでいるものに縦割り行政の弊害がある。中央の省庁ごとの政策や制度が多くの非効率や不自由を生んでいる。地方が自由な発想で、主体的に地方創生に取り組めるよう、今度こそは実効性のある本部をつくってもらいたい。

これまででも多くの地域活性化の施策があったが、成果をあげてきたと言えない。政府に本部ができるよう、各省庁から関連する施策と予算を寄せ集め、「地方活性化のための総合政策とその関連予算」とすることが多かった。本部自体には実行予算と実行部隊がなく、審議は省庁横断的に行うものの、その実施は従来の〇〇省△△課に割り振っていた。



米田 雅子 (慶応大特任教授)

識者評論 地方創生

解説

よねだ・まさこ 56年山口県生まれ。お茶の水女子大卒。専門は地方公共政策など。内閣府地域活性化推進部。近く「縦割りをこえて日本を元気に」を出版。

部自体が、個別政策の省庁横断の調整を行ったうえで、各省に仕事を割り振る体制を提案したい。

しかし、各省庁の施策りやすい話だ。の1覧表を作っても、地平時には森林整備や地域の創意工夫は喚起され土保全にも役立つとして、各省庁が全国一律で、岐阜県や高知県が検補助制度をつくり、そ討を始めている。しかし、それに地方が従う方式で、それぞれの道路は国土交通省、農道は農水省、林道は林野庁と分かれていて、それが被災地復をみても明らかだ。さらるために、取りまごめ興の動きを鈍らせている。省庁と課が決まらず、皆る。

寄せ集め施策脱却を

い発想の施策は、〇〇省が進めるべきと考えて△△課という所管がないも、すくんでしまいがちために前に進まないことだ。

例えば、私は「既存の部が、地方創生のエンジンとなるためには、本部自身が実行予算を持ち、割り行政の本質は予算道をつないで、防災の命地方発の省庁横断型の道ネットワークをつくる」の道ネットワークをつくる必要である。各省の施策を必要とする。各省の施策を集めた時に、それぞれに、縦割りの弊害を存の民間の道も洗い出しの重複や無駄を精査し生んでいる。省益を超えて、これらをつなぎ災害を予算をしばり出し、そして、地方に向き合うこと時の避難路を最小のコスれを実行予算の原資にすることができるかが問われている。

トでいへるといって、分かれてはどうか。つまり、本る。